県立鹿島高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】(令和7年度)

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を 考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指

- 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概 (1) 念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整 理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造
- し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

グローバル社会で活躍する人財を育成するリーディング校として、志を抱き夢に挑戦するために確かな学力を身に付け、文武両道を具現化する学校 ○大学進学へのニーズに応えた拠点校として、理数・国際教育の充実を図り、地域そして世界のリーダ

となる人財を育成 ○地元企業、近隣に位置する医療施設、鹿嶋市等との連携により、科学技術や国際社会等に対する探



- ○知識や技能の主体的な習得
- ○物事の論理的な解決力習得
- ○メリハリ(勉強・行事・部活動)をもち、何事にも打ち込む力の習得
- ○地域を担うリーダーシップの育成
- ○根拠を明確にして自分の考えを表現し、互いに伝え合う力の育成

- ○高い志と自立心、思いやりの心・情報収集・整理・分析する力
- ○思考力·判断力·表現力
- ○主体性を持って協働して学ぶ態度
- ○確かな学力
- ○問題点を自ら発見し、解決できる力
- ○基本的生活習慣の確立
- ○主体的に学習に取り組む態度
- ○新しい時代を生き抜く力

生徒の実態

- ◎規範意識・基本的生活習慣は概ね確立
- ◎部活動加入者が多い
- ○真面目で従順だが、自分で考えて行動する力が不足
- ○コミュニケーション能力が不足→自己開示欠如
- ○グループワークカ不足、自己主張力不足
- ○向上意欲不足(ある程度のラインで満足しがち)
- ○自己肯定感が不足
- ○主体的に学ぶ力が不足
- ○家庭学習の習慣が未確立
- ○目標が不透明

生徒の発達をどのように支援するか

〇配慮を必要とする生徒への指

教育相談部と連携

- ○発達段階に即した指導の実践
- ○定期的な面談の実施
- ○校務分掌・学年・教科枠を超えた組織的指導の実践
- ○習熟度別な学習、少人数教育の実践
- ○安心して自分の考えを言える学びの雰囲気の醸成

目指す生徒の姿

- ○文武芸を頑張る
- ○地域で協働的にリーダー的実行力をもつ
- ○グローバル社会で活躍する
- ○何事にも挑戦できる姿勢
- ○科目特性に応じた語彙の概念と、実験結果からデータを論理 的に理解し、説明ができる。
- ○思いやりの精神
- ○主体性·積極性
- ○語学力
- ○情報編集能力
- ○協調性
- ○自らの課題と目標を設定し、自己実現に向けて主体的に取り
- 組むことができる。

校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究)

- ○論理的思考(ロジカルシンキング)
- ○プログラミング的思考
- ○ダイバーシティ (多様性)
- ○基礎・基本となる知識・技能
- ○情報収集能力
- ○データ活用スキルと語学力
- ○グローカルな諸課題の発見能力
- ○課題解決を目指すために必要な思考力・判断力・表現力
- ○コミュニケーション能力
- ○自ら考える力
- ○自ら社会課題を実践していく主体性

- ○RPDCAを繰り返す
- ○演習形態を積極的に取り入れ、個々の目標を実現させる
- ○自主・自律的に学ぶ指導体制づくり (アクティブ・ラーニング、グループ・ペア学習)
- ○ICTを広く活用した主体的・対話的で深い学びの教育を実践
- ○自主学習ノート等を活用した学習習慣の定着
- ○各教科別の探求的な学習内容の充実
- ○言語活動の充実と根拠を下に批判的思考力の育成
- ○プレゼンテーション・インタビュー形式を導入し言葉を広く活用できる環境の創設
- ○「SDGs (持続可能な開発目標)」を考え、目的を明確化した教育の実践

○1クラスを2分割・選択授業等の制度などを活用、少人数指導の実践

∮体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- ○グランドデザインの共有。カリキュラムデザイン・行事・特別活動を含めた総合的指導計画、一局焦点化した生徒活動の 業務分担、インフラした教育業務の過重防止、目指すマネジメント、家庭・地域と協働した業務負担軽減
- ○アウトプット(発言する機会や書いた文章を見せる機会)増やしを定期的に実施
- ○学校組織として動く体制づくり(マンパワーに頼りすぎず、バランス良い分業化)
- ○学校生活環境の整備、ICT機器を活用した学習指導体制の構築 ○一人一人の授業への意識改善、最新の教育情報の取得
- ○授業に関する校内研修の定期的な実施(研究授業・公開授業等)○相互授業参観をとおした授業力向上
- ○職員研修への積極的参加
- ○教材研究をする時間確保
- ○外部講師の活用の推進
- ○学校HPや各種便りによる情報発信と、地域からの声の収集化
- ※保護者からの理解と協力が必須=①PTA総会 ②次年度教育課程説明会等の出席率向上

- ○一人で業務等を抱え込まない組織としての指導体制構築
- ○学校全体としての組織的かつ計画的な取り組み、教師間での実践事例の共有及び蓄積
- ○学年間の連携(進路学習指導部)により、進路指導体制の構築 ○学年・教科会議の充実
- ○教科・担任間連絡の密接化を推進(以後,家庭及び地域連携等の創設。)
- ○教員相互の研修機会の増設
- ○研修内容や指導スキルを共有できる機会の設定
- ○外部の研修に参加しやすい環境の推進
- ○いじめ・不登校事態を引き起こさない学年及び学級経営体制の構築
- ○学校・家庭・地域間の連携(協議会を設立し定期的・継続的な協議会の実施)